

# ラクナ梗塞における穿通動脈閉塞部位と危険因子、転帰との関係に関する研究

## 1. 研究の対象

2011年8月から2016年12月までに当院でラクナ梗塞の診断で入院治療を受けた方。

そのうち初発のラクナ梗塞であり、レンズ核線条体動脈領域に起こったラクナ梗塞が対象となります。頸動脈狭窄や頭蓋内血管狭窄など高度の動脈硬化性変化を有する症例、心房細動などの塞栓源心疾患を有する症例は調査対象外です。

## 2. 研究目的・方法

ラクナ梗塞は穿通動脈の閉塞による脳梗塞であり、他病型の脳梗塞と比べると脳梗塞体積は小さく重症度も低いとされていいますが、ラクナ梗塞の長期予後は比較的悪いとも報告されています。ラクナ梗塞の原因として穿通動脈の微小粥腫やリポヒアリノーシスが報告されていますが、それらは病理学的な研究に基づくものであり、実臨床ではその区別は困難です。しかし抗血栓療法の有用性を考える場合、その病態を推測することは非常に重要です。微小粥腫すなわち動脈硬化が関与するラクナ梗塞においては抗血栓療法が有効であると考えられますが、リポヒアリノーシスが関与するラクナ梗塞においては有効ではない可能性があります。我々は穿通動脈の閉塞部位と血管危険因子の関係を明らかにすることで、画像上ラクナ梗塞の閉塞機序を推定できるのではないかと仮説を立てました。そこで今回ラクナ梗塞における、穿通動脈の閉塞部位と危険因子、転帰との関係について調査しました。

研究期間：2017年4月～2018年3月

## 3. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢、性別、神経学的異常所見、血液検査（白血球、ヘモグロビン、血糖、ヘモグロビンA1c、コレステロール等）、頭部MRIなど。

## 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

済生会熊本病院

熊本市南区近見5-3-1 電話番号 096-351-8000

担当者 神経内科 永沼 雅基（研究責任者）